

# IT運用におけるAIの導入拡大： 2026年の成熟への道

エグゼクティブ・サマリー  
および主な調査結果

レポート全文を読み、<https://www.ivanti.com/scaling-ai-report>で全チャートをダウンロードしてください。

**ivanti**

ほとんどのIT企業はAI実験の域をはるかに超えています、  
リーダー企業と後発企業の差は急速に広がっています。

## ほとんどのIT部門はすでにAIの実験段階を超えている

Q: あなたのIT部門におけるAI成熟度をどのように評価しますか？

■ AI未活用 ■ 初期実験段階 ■ 限定的な活用 ■ 複数分野での幅広い活用 ■ 大規模かつ成熟した活用 ■ 不明

回答割合



### 2026年に向けたAI成熟度の道筋 | Ivanti

調査対象: ITプロフェッショナル (n=1,500)

回答選択肢: 「AIの本格的な活用はまだ行っていない」「初期実験段階: パイロットや概念実証レベル」「一部の業務領域で限定的な活用」「複数の領域で幅広く活用」「ビジネスの中核として規模拡大・継続的改善」「不明」

# AIはエンドポイント管理全体に組み込まれており、自動化のペースは加速しています。

## エンドポイント管理タスク全体にわたるAI導入は、2028年までにほぼ全面的な活用へと加速している

Q: 現在AIが担当しているエンドポイント管理業務、そして今後24か月以内にAIが担当すると予想される業務はどれですか？

■ 現在 ■ 24ヶ月以内 ■ AIの活用予定なし

異常なエンドポイント動作の検出



脆弱なデバイスおよび非標準デバイスの特定制



優先的に適用するパッチの特定制



パッチ展開の自動化



一般的なエンドポイント問題の自動修復



ハードウェア障害またはライフサイクルイベントの予測



2026年に向けたAI成熟度の道筋 | Ivanti

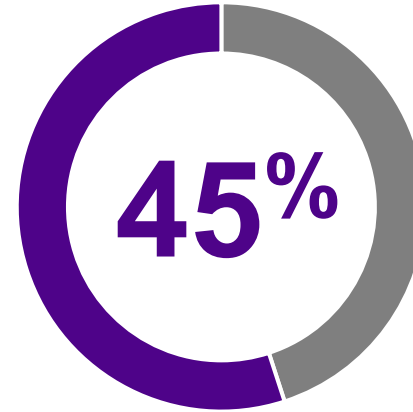
調査対象: ITプロフェッショナル (n=1,500)

回答数値は四捨五入されています。

AIによってITチームは時間を取り戻し、  
組織にとって最も重要な戦略的で複雑な仕事に集中できるようになります。



AIがIT専門  
家を救う  
**200+**  
**時間/年**



のIT専門家が、AI  
のおかげで作業が  
より速く、より効  
率的に進むと回答  
しています。



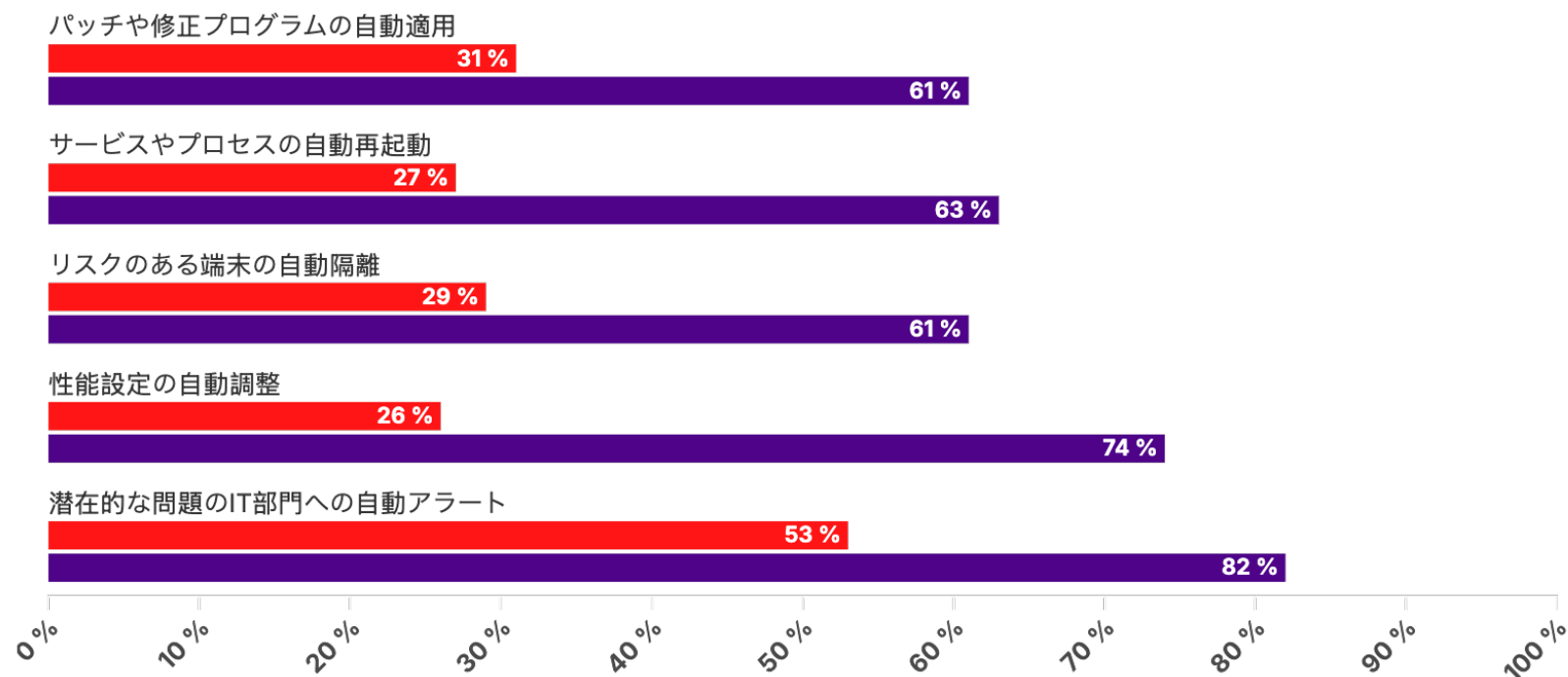
のIT専門家が、AI  
のおかげでより複  
雑で戦略的な仕事  
に集中できると回  
答しています。

AI成熟度を示す決定的な成果は、**事後対応の火消し**から**エンドユーザーが気付く前のプロアクティブな問題検出**へ移行することです。

## 高度に成熟したAIチームは、課題解決のスピードが2倍に向上している

Q: AIはどのような場面で、ユーザーに影響を与える前にITの問題を事前に解決していますか？

■ AI初期実験段階 ■ 大規模・成熟活用



2026年に向けたAI成熟度の道筋 | Ivanti

調査対象: ITプロフェッショナル (n=1,500)

回答数値は四捨五入されています。

ITにおけるAI導入は加速している一方で、  
ガバナンスが追いついておらず、そのギャップは負債になりつつあります。



**85%**

のIT専門家が、すべてのAIエージェントとワークフローには、責任者がいると回答しています。



**42%**

が、AIの説明責任は実は明確であると回答しています。



**24%**

の従業員が、日常業務においてAIポリシーに「非常に一貫して」従っていると回答しています。



ガバナンスはAIの成熟とともに劇的に向上します。とはいえ、AIの成熟度においてトップクラスにある企業でさえ、まだ改善の余地があります。

## 成熟したAI組織は、ガバナンスを業務に組み込んでいる

Q: AIガバナンスおよびリスク管理の取り組みをどのように評価しますか？

■ 正式なガバナンスなし ■ ガバナンスが文書化済み ■ ガバナンスを積極的に適用 ■ ガバナンスが業務に組み込み済み

AI初期実験段階



AI限定的な活用



AIの幅広い活用



大規模・成熟したAI活用



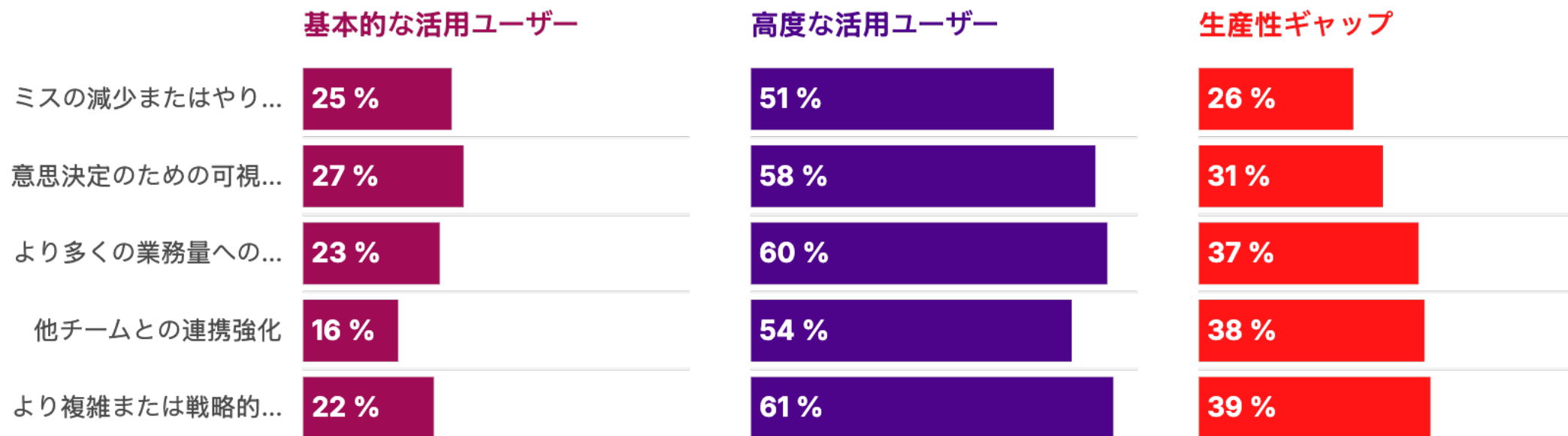
2026年に向けたAI成熟度の道筋 | Ivanti

調査対象: ITプロフェッショナル (n=1,500)

回答数値は四捨五入されています。

# 高度なAI活用者は、はるかに高い業務生産性の向上を実感している

Q: AIがあなたの業務生産性に最も大きな影響を与えたのはどの分野ですか？



The Path to AI Maturity in 2026 | Ivanti  
調査対象: ITプロフェッショナル (n=1,500)



# 今後の道筋

Ivantiの調査は、**AIの効果的な導入拡大を目指す組織**にとって、その現状がどうであれ、取り組むべき明確な**必須事項**が提示しています。

## AI成熟度への道筋はどのようなものですか？

**まず現状を把握することから始めましょう。**

AIによるメリットは早期に現れ、投資とともに加速的に増加します。そして、多くのITチームは、現在保有しているツールやワークフローの中に、まだ活用されていない潜在能力が秘められていることに気づかないままです。

**ガバナンスを後付けするのではなく、組み込みましょう。**

ガバナンスのギャップを埋めた組織は、構造的に説明責任を組み込んでいます。単なるポリシー文書の中だけでなく、ガバナンスの統制がプラットフォームそのものに組み込まれているのです。

**役割を単に拡充するのではなく、再設計してください。**

すでに3社に1社以上の組織が、AIを軸にIT部門の役割を大幅に再構築しています。トップクラスの企業は、パフォーマンス指標とキャリアパスを再定義しています。

# 調査について

Ivantiは2026年2月から3月にかけて、米国、英国、フランス、ドイツ、オーストラリア、日本の6カ国で、計3,900人の従業員を対象に調査を実施しました。当社の目標は、AIが地域や業界を問わず、IT運用や労働力のダイナミクスをどのように変革しているかを理解することです。

調査には、2つの異なる回答者グループとして ITまたはサイバーセキュリティに関する主な責任を担う1,500人のIT専門家グループと、IT以外の職務に従事する2,400人のオフィスワーカーのグループが含まれていました。参加者は全員、従業員数500人以上の組織で働いています。

本レポートでは、AIの導入に関する異なる側面をそれぞれ測定する、2つの異なる成熟度指標を採用しています。1つ目は、*組織のAI成熟度指標*であり、組織がIT運用にAIをどの程度広範かつ深く統合しているかを反映しています。回答者（IT専門家）は、所属組織について、「初期段階の実験：パイロット事業や概念実証」から「継続的な改善を伴う、事業に不可欠な大規模な活用」までの5段階評価で評価しました。本レポートでは、比較の対象を主に「初期段階の実験」と「大規模でクリティカルな組織」、つまり積極的な導入のスペクトルにおける両極端—に焦点を当てています。AIを使用していないと報告した組織は、成熟度の比較から除外されています。

2つ目は、*個人のAI成熟度尺度*で、AIを自分の日々の業務にどれほど深く統合しているかを反映しています。回答者（IT専門家およびオフィスワーカー）は、「基本的な利用：簡単なタスクのためにAIチャットツールを時折使用する」から「高度な自動化：AIを活用したワークフローの構築や、自律的に動作するAIエージェントの利用」に至るまでの5つのプロファイルから選択しました。調査結果が個人の成熟度別に分類されている場合、本レポートでは「基本ユーザー」と「高度な自動化ユーザー」を比較しています。

自己申告による情報収集には限界があります。人は自身の取り組みや組織の能力を評価する際に、偏った見方をしてしまう可能性があるためです。読者の皆様には、これらの制限事項を念頭に置いて、本調査結果を解釈していただくようお願いいたします。

本調査はRavn Researchが実施し、パネリストは MSI Advanced Customer Insightsが募集しました。調査結果には重み付けされていません。付録には、人口統計および企業属性別の内訳を掲載しています。国別の詳細については、ご要望に応じてご提供いたします。